

奥日光で観察した鹿の骨格と食物について

1. 研究の目的

奥日光に鹿が生息していることを知り、鹿がどのような物を食べているのか、人間と鹿の骨格にはどのような違いがあるのかを明らかにする。

2. 観察方法

(1) 逆川で鹿の骨の採集を行う。

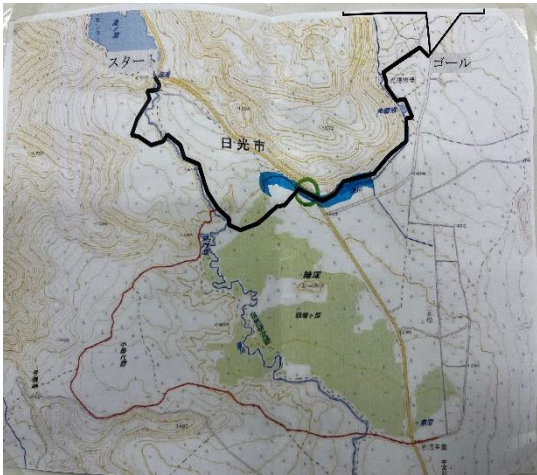


図1 フィールドワーク

(2) 西ノ湖で鹿の痕跡を観察する。



図2 鹿の足跡

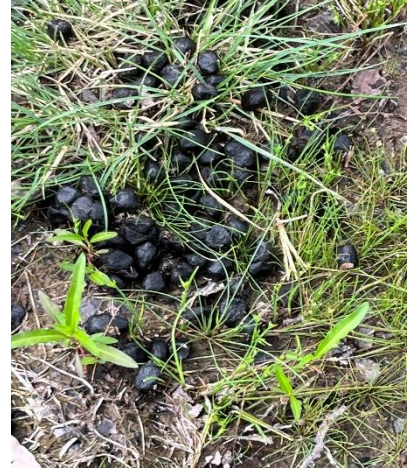


図3 鹿の糞

(3) 採集した骨の部位の同定をする。

3. 結果

- ・ (1)から図4のような鹿の骨を採集した。
- ・ (2)では鹿の足跡と糞という痕跡を発見出来た。



図4 採集した骨

「鹿の骨（2. (3)の骨の同定結果）」



図5 頸椎（けいつい）

形状から第3頸椎～第5頸椎
（または～第7頸椎）



図7 腰椎（ようつい）



図6 肩甲骨（けんこうこつ）



図8 中足骨（ちゅうそくこつ）

上の骨は中足骨と考えられる。

中手骨（ちゅうしゅこつ）

下の骨は中手骨と考えられる。



図9 橈骨（とうこつ）

囲んだ骨は橈骨と考えられる



図 10 肋硬骨（ろっこうこつ）



図 11 胸椎（きょうつい）

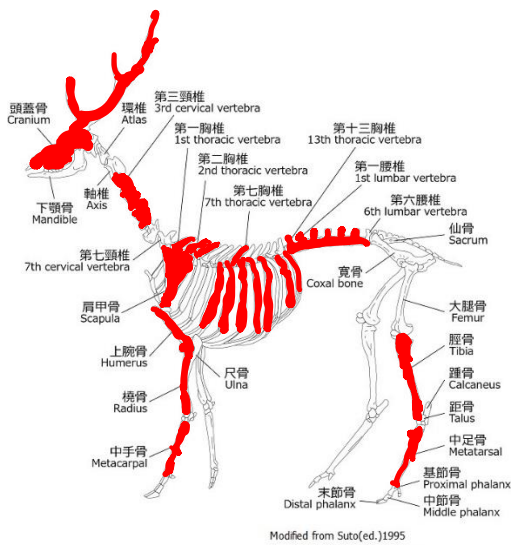


図 12 今回の調査で見つけた骨
（塗りつぶされた部分）

「食物」



図 13 「ウラジロモミ」
鹿による剥皮被害
にあった木



図 14 「左側」スズタケ
「右側」ミヤコザサ

「鹿の痕跡（図2、図3参照）」

図2と図3は西ノ湖で発見した鹿の糞と足跡である。糞を割ってみると中身は細かく砕かれた緑色の繊維状の物が混ざっていた。また、匂いを嗅いでみると少し草の匂いがした。触った時の感触はコロコロしており手で触れても糞が付着する程の粘り気はなかった。

4. 考察

- (1) 鹿の糞の緑色の繊維状の物や、割った時の匂いから、スズタケやミヤコザサなどの食物を食べていると考えられる。
- (2) 西ノ湖周辺で鹿の足跡を複数発見できたことからかなり最近鹿が訪れていたこと、また、多くの鹿が訪れていると考えられる。
- (3) 日光では近年鹿が増加傾向にある為ミヤコザサをはじめとする鹿の好む植物は減少傾向にあると考えられる。

5. 今後の課題

- ・鹿の食べるものには好みがあり、それは何をもって決まるのかを調べる。
- ・人間と鹿の骨格や内臓の比率や数を比較した際の機能やつくりの違いを明らかにする。

6. 参考文献

一般社団法人奈良の鹿愛護会 <https://naradeer.com/learning/ecology.html#group=day&photo=day> (2022年 12月20日)

謝辞

日光自然博物館 仲田 桂祐先生 大変お世話になりました。